

視察報告書

- 1 視察日時 令和4年7月12日 9時00分 ～ 12時00分
- 2 視察先 ① 赤磐市立軽部小学校
② 多機能型障がい者施設 おひさま PLUS 瀬戸万富事業所
- 3 視察目的 ① 令和3年度からGIGAスクール構想による児童生徒1人1台端末の活用が開始され、授業での活用状況等の確認。
② 障がい者福祉施設の現状と生活介護・就労継続支援B型の課題について調査、確認。
- 4 視察参加者 厚生文教常任委員会委員
・光成 良充 ・福木 京子 ・原田 素代
・大森 進次 ・永徳 省二 ・牛尾 直人
- 5 視察概要 ① 校長先生から、タブレット端末の使用状況、また赤坂地域の3校でタブレットを使用してリモートでの情報交換、発表会を行うなど、実際授業で使っているが、タブレットを使用するための授業を行っているのではなく、授業を行うためのツールの1つとして活用をしている等の現状について説明を受けた後、教室に移動し、実際にタブレットを使用して行う授業の様子を確認した。
1年生ではカメラ機能を使って雨上がり後に雨を感じるものを撮影して発表をする授業を参観した。
4年生では、国語の授業でローマ字の学習を兼ねて、都道府県名のタブレットへの入力、フォント色の変換方法など担任の先生とICT支援員で協力して授業を進めていると感じた。
6年生では、Wordを使って文章の入力、図形を使って自分が紹介したい本の効果的な宣伝、カメラを使い画像を取り込んでそれらでポスターを作成するという、大人でも戸惑うことに担任の先生とICT支援員が生徒の机に行き、操作方法の指導を行い、わかりやすい授業となるよう取り組んでいた。
その後、別室で質疑応答を行い、視察を終えた。
② 施設代表者から、施設の事業内容、事業それぞれについての説明を受けた。
生活介護では、生活の中で孤立しないようスタッフとのコミュニケーションを通じて、社会と繋がる機会を増やすようにしてい

てここで、生産活動も可能にし、内職で工賃を得ることができる
と説明があった。

就労継続支援B型では、就労の機会を提供して、生産活動を通
して一人一人に合う仕事の提供、必要な訓練を行っていた。仕事
の提供は現在、定期的にあるが、今後新たな仕事の確保も視野に
入れていると説明を受けた。

6 所感

- ① 1人1台端末の活用がいろいろと影響を与えていると感じた。
まず、ネット環境の整備について、学校の中でも繋がりやすい、
繋がりにくい場所があり、運動場、体育館では繋がりにくい。小
学校は避難場所になっていて、今後、Wi-Fiの整備を考えない
といけない。また、休校、学級閉鎖など家庭で端末を使う場合、
家庭でのネット環境も考えないといけないが、一応、その時のた
めにWi-Fiルーターを300台確保していると聞いている。
今後、災害時の転用や、学校の授業での活用など他の活用方法
も考えるべきだと思った。

- ② 経営母体が別にあり、それで万富事業所となっているのだが、
この業界は、需要と供給のバランスがうまく取れていない状況が
あると感じていて、新たな施設を考えてもらいたいと思える優良
な施設だと感じた。
できれば、赤磐市でも新たに事業展開をと思わせる事業所で、
利用者だけではなく、それに付随するあらゆること、新たな雇用
や、福祉の充実など今後の赤磐市にとってプラスとなることが多
いと思う。

以 上